



飲酒運転の根絶を推進

都城地区交通安全対策協議会の作成した箸袋の贈呈式が11月24日、市役所で行われ、宮崎県飲食業生活衛生同業組合都城支部に10万枚が贈呈されました。毎年12月と1月は飲酒運転検挙者が増えることから、忘年会や新年会で飲酒運転の根絶を訴え、飲酒運転をさせない環境づくりを進めようと企画。贈呈を受けた同組合の天水富士雄都城支部長は「来店する全ての人に、飲酒運転の根絶の誓いを心に刻んでほしい。飲酒運転がなくなるよう、有効に活用したい」と力を込めていました。



飲酒運転根絶箸袋贈呈式

国民の安全を守る隊員らの英姿

11月25日・26日の2日間、陸上自衛隊都城駐屯地をメイン会場に、都城駐屯地開設66周年と第43普通科連隊創隊55周年記念行事が開催されました。11月25日は、50年ぶりに市中パレードを開催。沿道に詰め掛けた市民や家族らが見守る中、都城駐屯地前の県道約200メートルを隊員400人と車両20台が力強く行進しました。広報を担当する長野英樹3等陸尉は「自衛隊活動の意義を知ってもらうとともに、市民の皆さんに自衛隊を身近に感じてもらう良い機会になった」と手応えを話していました。



陸上自衛隊都城駐屯地記念行事

子どもたちの笑顔思い浮かべながら

全国の塗装施工業者らが社会貢献を目的に組織する「闘魂ペインターズ」による遊具塗装が11月25日、母智丘公園で行われました。同組織に加盟する市内事業者の呼び掛けで、資材メーカーの関係者など13人が参加。参加者らは寒空の下、園内の遊具一つ一つを手際よく塗り直していました。代表の深港洋人さんは「塗装の傷みが進んだ遊具もあったので、安全にも配慮しながら丁寧に作業した。多くの子どもと家族に利用してほしい」と、遊具で元気に遊ぶ子どもたちの姿を思い浮かべていました。



母智丘公園遊具塗装ボランティア

150年の歴史をつなぐ誓い

高城小学校の創立150周年を祝う式典が11月26日、同校体育館で開催されました。明治元年1月に創立されて以来、多くの卒業生を送り出してきた同校の150年を祝おうと、在校生や教職員、地域住民ら500人が参加。在校生を代表して6年生全員が「先輩たちが育ててきた高城小学校を、未来へつないでいきたい」と、群読であいさつ。式典終了後の記念アトラクションでは、第36回全日本小学校バンドフェスティバルで金賞を受賞した、同校吹奏楽部が演奏を披露し、式典に花を添えました。



高城小学校創立150周年記念式典

いつまでも健康でいるために

女性のための骨こつ健康教室が11月29日、コミュニティセンターで行われました。骨がもろくなる病気「骨粗しょう症」の危険性や予防法を講話で学び、骨量を上げるための調理実習や運動指導を受けられるこの教室。今回は、市保健師の講話の後、介護予防運動指導者の山下美幸さんによる運動指導が行われ、参加者らは、童謡「あんたがたどこさ」に合わせたボール運動や、屈伸運動などに悪戦苦闘。全員で輪になって行う運動もあり、参加者らは、交流を楽しみながら汗を流していました。



女性のための骨こつ健康教室



学びを深め、成果を披露

地域住民の日頃の生涯学習活動などの成果を発表する、生きがいふれあいフェスタ「山之口」が12月3日、山之口勤労福祉センター周辺で開催されました。地元保育園やフラダンスサークルなどの発表のほか、麓小学校人形サークルの5・6年生が、6月から練習を重ねている山之口麓文弥節人形浄瑠璃の演目を披露。会場からは温かい拍手が寄せられていました。また、山之口小学校6年生が「命の祈り〜」をテーマに平和学習で深めた、平和への思いを発表しました。



生きがいふれあいフェスタ「山之口」

郷土の宝を守り伝える

都城民俗芸能祭が12月3日、総合文化ホールで開催されました。市内のそれぞれの地域で保存・継承されている民俗芸能の発表の場として、都城市民俗芸能保存連合会が毎年開催するこの催し。今年は市内の6団体が、踊りや太鼓など、地域に伝わる民俗芸能を披露しました。このほか、鹿児島県出水市のユーモラスな民俗芸能「高尾野兵六踊り」も披露され、会場は大いに盛り上がりました。大川原紀美生会長は「ふるさとの素晴らしい宝に気付く機会にしてほしい」と期待を込めていました。



都城民俗芸能祭

サンタは名パティシエ

お菓子の南香(甲斐元町)主催のクリスマスケーキ作りが12月5日、同社工場で開催されました。25年前の第1回目のケーキ作りに参加した子どもらの笑顔に感動した遠武弘蔵社長が、毎年続けているこの取り組み。今年は、ひかり園の園児と保護者約50人が参加しました。子どもらは、サンタクロースに扮した同店のパティシエに教わりながら、ケーキの盛り付けなどに悪戦苦闘。種子田瞬汰さん(4歳)は「ケーキを初めて作った。とても楽しかったので、また作りたい」と笑顔を見せていました。



クリスマスケーキ作り

実戦を想定しプレーの質を高める

元キューバ代表選手のモリス・トラルバさん(前田町)による小学生を対象にしたバレーボールクリニックが12月9日、都城運動公園体育館で開催されました。市内の少年・少女バレーボールチームに所属する70人が参加。参加者らはサーブやトス、アタックなどを、実戦を想定した丁寧な指導を受けながら、集中して取り組んでいました。香田蓮奈さん(祝吉小6年)は「相手を見ながらプレーするなど、普段とは違う練習で勉強になった。試合にも生かしていきたい」と息を弾ませていました。



元キューバ代表選手によるバレーボール教室

肉と焼酎を味わうメニューが完成

「肉と焼酎のふるさと・都城」ならではのおもてなしで観光誘客を図るミートツーリズム推進事業。その目玉となるグランドメニューのお披露目会が12月15日、フレンチレストランシエケン(横市町)で開催されました。今回のメニューは「本物の肉と焼酎を味わう」をコンセプトに、市内6事業者が考案。フレンチやイタリアン、和食など、各店舗の特徴を生かしたメニューが紹介されました。今後、グランドメニューは、本市に宿泊するツアーなどで提供され、旅行者に本市の魅力を提供します。



ミートツーリズムグランドメニューお披露目会

人 風景

smiling faces of miyakonojo

11月10日から12日にかけて、米のコスタリカで開催されたWRO 2017国際大会に、都城泉ヶ丘高等学校附属中学校（泉ヶ丘中）サイエンス部の田口大輝さんと宮元颯太さんが出場しました。WROは、世界中の子どもたちがロボットを製作し、プログラムにより制御する技術を競う国際的なロボットコンテストです。田口さんらは、宮崎大会を勝ち上がり、9月に東京都で開催された全国大会で見事3位に入賞。国際大会出場の切符を手に入れました。

小さな頃からブロックを組み立てたりすることが好きだった田口さん。「泉ヶ丘中にはロボットを作れる部活動がある」と同校への進学を決め、サイエンス部に入部しました。部活での活動の傍ら、小学5年生の頃から通っている県内のロボット教室でも技術を磨いています。また、宮元さんは技術者に憧れていて、物理や物づくりに興味があったことからサイエンス部に入部。プログラミングなどの知識を深めています。

二人が参加した中学生の部は、競技コート内にあるブロックの色をセンサーで識別しながら、制限時間内に所定の位置に運ぶなどして得点を重ね順位を競う競技。プログラムは事前に準備できるものの、ロボットの組み立ては競技時間内に行わなければなりません。国際大会出場を決めた後は、ロボットの軽量化や使用する部品の簡素化などを図りながら、部活以外の時間でもロボットの組み立ての準備を進めてきました。

国際大会には、世界各国から予選を勝ち上がった86チームが出場。モーターや部品の使い方など、二人が想像していた以上のレベルの高さに、驚くことばかりでした。結果は35位でしたが「宇宙開発に力を入れているロシアや、IT技術が盛んなマレーシアなどの高いレベルの技術を間近で見ることができ刺激を受けた。また、一緒に食事をしたり名刺を交換したりしたことで、各国の選手と交流を深めることもできた」と田口さんは笑顔で話します。



WRO 2017 国際大会出場
右から

田口 大輝さん

宮元 颯太さん

(都城泉ヶ丘高等学校附属中学校2年)

世界の子どもたちと
技術を高め合う

